

合宿所のない母校に生活館の実現を

- 募金目標額 1億8千万円
- 募金の現在額 4千8百万円 (3千2百人の方々より)
- 当初の予定額を下回っていますので、一層のご協力をお願いします。

生活館の建設実現へ 東高同窓生のご協力を

生活館建設推進委員会委員長 山口 森 三

風薫る五月、櫻の若葉が小さな繊細な葉をつけて風にゆらゆらしているのを見るだけで、目も心も緑に洗われるような爽やかさです。

この万緑一斉に燃え立つ季節、皆様いかがお過ごしでしょうか。ますますご健勝で活躍のことと思います。日頃母校のために様々なご高配をいただき、感謝しております。

昨年末には、生活館建設基金のご協力を皆様にお願ひいただき、多くの方より募金をいただき、厚くお礼申し上げます。

これまで私達後援会は同窓会と協力し、生徒がよりよい教育環境のもとで学習や運動に意欲的に取り組むことができるよう施設、設備面を中心として事業を行ってきました。この度の生活館に

つきましては、募金目標額が一億八千万円にものぼる大きな工事のため、後援会の手には余り、一万六千名余を数える同窓生の皆様のお力添えを得る以外には方法がありません。そこで再度同窓会新聞の紙面を借りましてお願いをする次第です。

ここで生活館の建設に踏み切らざるを得なかった事情について簡単に説明をして、皆様のご理解を得たいと思います。

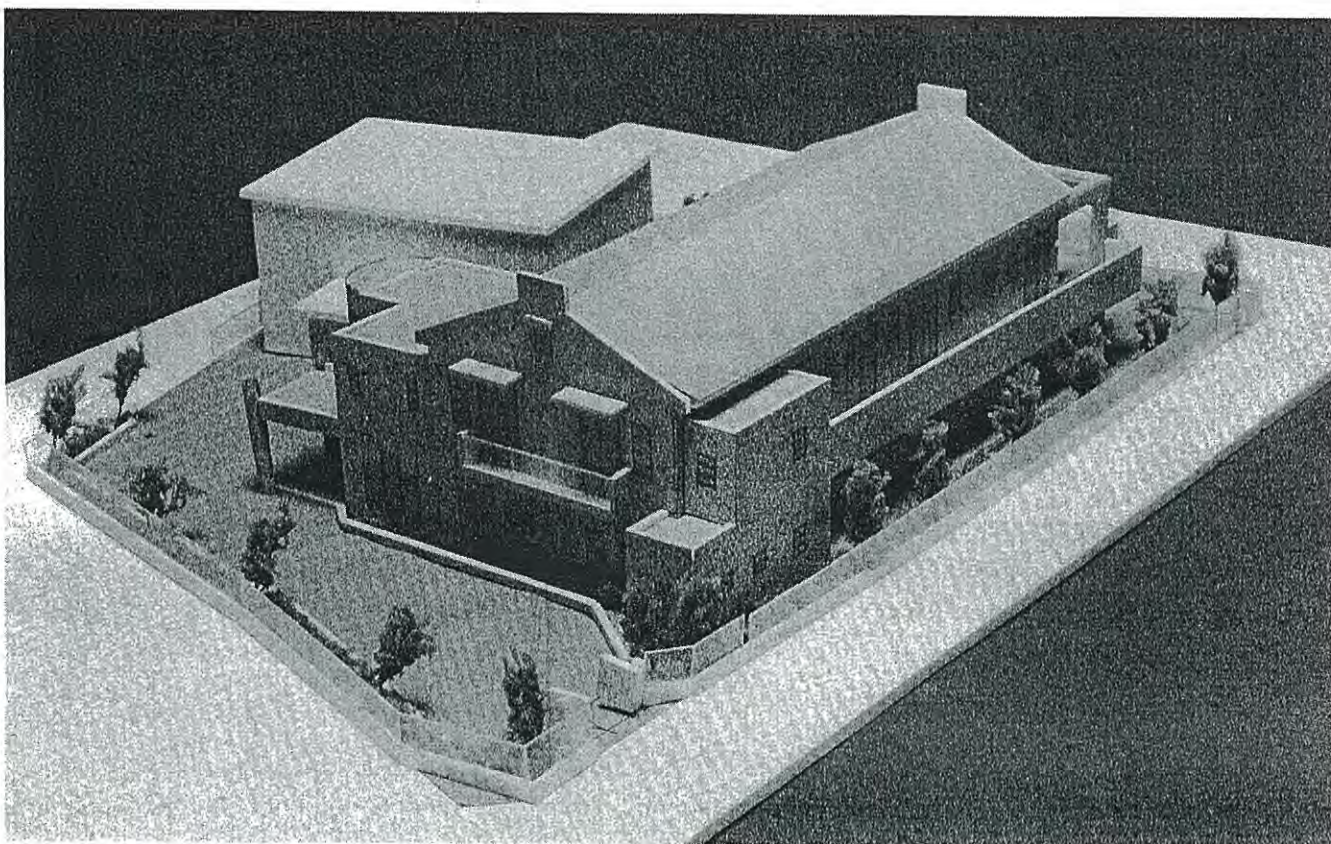
これまで生徒が合宿所として利用してきた建物は、創立当初の大正十三年に建てられた木造校舎でした。この老朽化の甚だしい校舎を愛着をもって使ってきましたが、内外部の至る所に破損を生じ、補修工事も限界にきてしまいました。また、東海地震の発生を想定すると、耐震性のないこの建物は安全性の面で

も大きな問題がありました。そのため、この数年にわたり生活館の建設が検討されてきました。ところが、昨年の七月末、この合宿所と同じ時期に建てられた卓球場（旧生徒控室）が火災にあり、隣りに全焼してしまいうという災難があり、老朽化した木造校舎の火災にたいする危険性を思い知らされました。この教訓から、安全性を優先して、創立当初からの唯一の建物である合宿所を昨年末に取り壊しました。合宿所がなくなってしまうため、当然の結果として、ブラスパンドは狭い同窓会館で練習をし、また各部の合宿は同窓会館に畳を敷き、会館に入り切れない生徒は教室に新聞紙を敷いてやらざるを得ない状態が生じています。本来でしたら、県立高校です

生活館建設の活動報告

会 名	日 時	場 所	内 容 (協議の)
藤枝東高等学校同窓会役員 会	元. 7. 8 (土) 16時～	小杉苑	藤枝東高等学校合宿所改築計画(案)
藤枝東高等学校合宿所改築準備委員会発足にともなう後援会・同窓会・PTA合同役員会	元. 7. 25 (火) 15時～	本校会議室	(1)合宿所改築計画(構想)について (2)建設準備委員会発足準備について (3)今後の推進計画について
藤枝東高生活館至誠館(仮称)建設準備委員会 第1回	元. 9. 12 (火) 14時～	本校同窓会館	(1)生活館建設計画 (2)建設準備委員会の発足について (3)今後の推進計画について
藤枝東高等学校同窓会役員 会	元. 11. 11 (土) 15時～	本校会議室	次回の会の打ち合せ
藤枝東高生活館至誠館(仮称)建設準備委員会 設立 総 会	元. 11. 18 (土) 14時～	本校体育館	(1)建設計画の基本構想案 (2)建設準備委員会規約 (3)建設準備委員会の役員選出 (4)専門委員会の設置と役員選出 (5)今後の推進計画について
生活館建設委員会 役員 会	2. 2. 16 (金) 15時～	本校応接室	(1)生活館建設設計図案検討 (2)募金状況中間報告 (3)同窓会新聞発行の件 (4)後援会・同窓会主催講演会の件
学 校 後 援 会 員 評 議 員 会	2. 2. 20 (火) 14時～	本校会議室	(1)近況報告(生徒課・進路課) (2)本年度PTA会務報告 (3)本年度後援会・PTA会計中間報告 (4)生活館建設計画について (5)平成2年度地区役員選出について

生活館完成予想図



から県の予算で建てざるを得ずが、静岡県では合宿所や生活館の建設については予算を組んでいません。そのため、近隣の殆どの高校は昭和五三年から平成元年にかけて一億五千万円以上の予算で後援会や同窓会の援助によって生活館を建ててきました。しかし、父兄からの寄付行為はこの数年社会問題として大きく取り上げられ、県の指導もあり、また基本的にも好ましい方法ではありませんので、この数年

うしても社会人として活躍なさっている同窓生の皆様のお力に頼らざるを得ません。同窓会のご協力なしではこの事業を実現することは不可能です。まことに無理なお頼みであることは承知のうえでお頼みせざるを得ないのが実情なのです。

東高も現在、学級増のため各学年とも九クラスずつ、計一四〇名というかつてない規模となり、施設の収容能力も限界ではあります。何とかこの数年のピークをしのぐことができそ

うです。また、生徒の進学や部活動における活躍はめざましいものがあり、よき意味で伝統が息づいています。この自主的・創造的な活動をより一層活発にし、生徒が人間的な交流を深め、個性を磨くための多目的な活動の場としての「生活館」をなんとして建設してやりたいと思っております。会員の皆様にも生徒の窮状をご理解いただき、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。